

令和4年度第1回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日 時	令和4年6月29日（水）14：00～15：40
会 場	市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	<p>委 員：中野会長、渡辺副会長、本間委員、村田委員、石塚委員、加賀美委員、小塚委員、刈屋委員、矢坂委員 （欠席委員）唐沢委員</p> <p>事 務 局：栗林教育部長 子育て支援課…平岡課長、相場子どもの育ちサポートセンター長、伊藤主任、竹中幼保小連携推進員 学校教育課…熊倉課長、今井指導主事、新保指導主事</p> <p>報道機関：なし 傍 聴 者：なし</p>
会 議 内 容	
相場センター長	<p><b>【開 会】</b> 幼児教育推進会議は、委員の任期を2年としており、今回は令和4年度及び令和5年度の新たな委員による初めての会議である。</p>
栗林部長	<p><b>【挨拶】</b> 委員の皆様には、任期の2年間よろしくお願ひしたい。 幼児期の教育は子どもたちの生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で極めて重要な役割を担っているという認識の下、本市は、平成23年度から5年間にわたる幼児教育推進プランを策定し、その後、平成28年度から令和4年度までの7年間の期間とする第2次プランを策定し、「生きる力の基礎を育てる」ことを目標に掲げ、様々な取組を進めている。 第2次プランの計画期間が今年度末までとなることから、当市のすべての幼児の健やかな成長につながるよう、幼児教育の推進に向け、委員の皆様から様々な御意見を頂戴し、第3次プランの策定をすすめて参りたい。</p>
相場センター長	<p><b>【出席者数、資料の確認】</b> 10名の委員の内、9名の委員が出席となっている。三条市幼児教育推進会議要綱第6条第2項の規定により半数以上の委員の出席があり、本会議は成立している。</p> <p>資料の確認 （当日配布分）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第1回三条市幼児教育推進会議次第」</li> <li>・「幼児教育推進会議委員名簿」「座席表」(両面印刷)</li> <li>・「三条市幼児教育推進プラン(第3次)策定について」</li> <li>・「三条市幼児教育推進プラン(第3次)策定に伴うアンケート調査」</li> <li>・冊子「三条市幼児教育推進プラン(第2次)概要版」</li> <li>・冊子「安心わくわくプログラム 家庭版」</li> <li>・冊子「三条版 運動遊びプログラム 家庭版」 (事前送付分)</li> <li>・「令和3年度幼児教育推進プラン実施状況」</li> <li>・「令和4年度幼児教育推進プラン実施計画」</li> <li>・冊子「三条市幼児教育推進プラン(第2次)」</li> </ul> <p><b>【委員及び事務局自己紹介】</b>  中野委員、渡辺委員、村田委員、石塚委員、本間委員、加賀美委員、小塚委員、刈屋委員、矢坂委員</p> <p>三条市小学校校長会 唐沢委員 欠席</p> <p><b>【子育て支援課職員の自己紹介】</b>  栗林教育部長 平岡課長、相場センター長、伊藤主任、竹中幼保小連携推進員</p> <p><b>【学校教育課職員の自己紹介】</b>  熊倉課長、新保指導主事、今井指導主事</p> <p><b>【会長・副会長の選任】</b>  会長：中野委員 副会長：渡辺委員</p> <p>今年度は第3次プランの計画策定をすることとなる。これまでを振り返りながら、何が必要なのか等をプランニングする必要があるため、委員の方には少し負荷がかかると思うが御協力いただき、子どもたちのためによりよい三条市になるようお力添えをお願いしたい。</p> <p>中野会長の元、一生懸命務めさせていただきたい。</p>
--	--

平岡課長	<p><b>【議題(1)三条市三条市幼児教育推進プラン（第2次について）】説明</b></p> <p><b>【質疑・応答】</b> なし</p>
相場センター長	<p><b>【議題(2)令和3年度三条市幼児教育推進プラン実施状況について】説明</b></p> <p><b>【質疑・応答】</b></p>
中野会長	<p>15 ページ重点項目2について、第1次プランの時は、中学校区単位で小学校の先生方と保育所等の先生方が集まり情報交換のような会をされていたと思うが、そのシステムはまだ生きているのか。その体制が今現在も継続されているのか確認できなかつたので教えていただきたい。</p>
平岡課長	<p>19 ページを御覧いただくと、施策(2)の交流活動の推進の幼保小連携合同会議とあるが、これが学園単位で開催しているもので、中野会長が言われたものになる。</p>
中野会長	<p>その後の情報交換の場として実施しているという考えでよいか。</p>
平岡課長	<p>そのとおりである。</p>
中野会長	<p>この枠組みはとても重要だと思っており、実際の担当者、子どもたちを送り出した側がその後の様子や何に困っているか等を知れる機会である。これは三条市独自のものであり、実際に担当している者が、生の姿を見ながら課題を共有できることは、大切な枠組みである。</p> <p>15 ページの小学校への訪問、情報交換というのは市の担当者が訪問するということか。</p>
竹中幼保小推進員	<p>学校訪問は市の担当者と、交流活動の1つとして幼児施設の先生も一緒に1年生を訪問し、授業の様子を参観した後に情報交換を行っている。</p>
中野会長	<p>8 ページにある市の取組の中で、個別の発達支援計画作成における支援、13 ページの保育所評価の確実な実施に対する支援という言葉が使われている。個別の支援計画作成状況及び引継ぎ状況等の把握と記載して</p>

	<p>いるが、把握することを支援と言っているのか、個別の支援計画を作成するときに具体的に困っている部分を手伝ったり相談にのったりすることを言うのか。支援の意味はどういうことを指すのか。13 ページでも、着実に評価及び改善を行うように働きかけるとあるが、具体的な支援の中身は何か。</p>
相場センター長	<p>個別の支援計画作成の際に、相談することである。</p>
中野会長	<p>相談にのる担当者が決まっているのか。機能強化が必要な部分であるならば、現場の支援を行えるスタッフの充実等も大事な要素だと思う。ある程度実施しているかいないかを把握することも大事だが、保育所側の現場が求めていることに応じてあげられる体制は大事な機能だと思う。</p>
村田委員	<p>保育現場側の立場から言うと、実際に昨年度あった事例で、保育園から子どもの育ちサポートセンターに相談をして保護者と園と子どもの育ちサポートセンターと三者で個別の発達支援計画を作り上げていくということがあった。現場としてもすごくやり易く、保護者も納得して進めていくということを定期的実施でき、とてもありがたかった。</p>
平岡課長	<p>市の体制としては地区担当保健師を配置しており、その地区における個別の発達支援計画について対応している。その中で、村田委員が言われる対応を行っている。</p>
中野会長	<p>市側が着実にすべきものとしてそういったこともあるが、次の課題は保育のアドバイスであると考えている。</p>
加々見委員	<p>年中児発達参観については、試行錯誤して実施していると思うが、みんなの前で参観をすることは親の立場として不安であった。他県の保育者に話すと年中児発達参観の取組は驚かれた。通常、日々の保育の中で支援や声掛けが必要だと先生方が気付くことを、参観ではクラスの保護者が目の当たりにすることになる。他市の状況を聞くと、市の職員が日々子どもの様子を園に見に行き、先生と連携を取りながら保護者に話をしたり、個別の対応をしたりしているところもあるとのこと。</p> <p>早期から支援をした方がいいということは重々承知しているが、いい</p>

中野会長	<p>ことをやっているのであれば、尚更ソフトに行くことができないものかと思っていた。</p> <p>制度の趣旨を説明いただきたい。</p>
平岡課長	<p>子どもの発達に関する支援については、早期発見・早期対応・早期支援が肝要であると言われている。この原則に基づいて早期発見の気付きの部分として始めたのが年中児発達参観である。</p> <p>開始当初は確かに賛否あり、否定的な意見もあったが、年々実施を重ねて事業の趣旨を保護者から御理解いただいていた中で、実施後のアンケートではやってみてよかったという回答が99.2%となっている。具体的な理由としては、「普段見ることのできない先生や友だちとの関わりの様子を見られた」、「家では見られない集団活動の様子を知ることができた」との声をいただいている。こういったことから年中児発達参観が定着してきていると認識している。</p> <p>他方で委員が言われるように気にされる保護者もいらっしゃることも事実である。そういった点の配慮については引き続き、こういったことができるのか考えながら進めていく。</p>
加々見委員	<p>アンケート結果については、年中児発達参観が終われば「よかった」という安堵感が大きく、ただそこが重要視する部分なのかといえば違うと思う。やり方にひと工夫が必要なのではないかということ。</p> <p>年中児発達参観を実施して、助かっている保護者はいるはずである。一方で、現実を認めることがすごく辛い保護者もいると思う。保護者が現実を受け入れやすいようにやんわりとできるように、という思いだけである。いいことをやっているのだからこそ、よりよい方法で実施してもらいたい。</p>
中野委員	<p>設計当初の思いというのは、保育者・保護者だけに任せずにその他のスタッフが入って支援する。本当に重要なのは早期発見というよりはその先の継続的な支援が第一である。そこで気付きを生むということだったはず。保護者は強制参加なのか。</p>
伊藤主任	<p>ほとんどの方が参加されるが、強制参加ではない。</p>

中野会長	そのあたりの趣旨を踏まえた上で考えていただきたい。気付きの部分で、普段の保育の現場、普段の姿を参観できる体制があるのであれば単純に問題解決できる。
加々見委員	現場の先生はすごく小さな変化等にも気付いてくれている。だから個別に保護者に来てもらって園や市から話をしてもらえれば、保護者はすごく気が楽だと思う。大勢の中で一斉にやる必要があるのか疑問である。その意味を教えていただきたい。
栗林部長	<p>やはり、開始当初はそういった意見も多くあって今に至っている。</p> <p>委員は、みんなではなく個々に応じてということを言われた。年中児発達参観を待たずとも、園で色々な育ちの気付きがあれば地区担当保健師や子どもの育ちサポートセンターと相談して、保護者の方と話をしたりして以前より連携をしている。そういった中で、より精度を上げていくことを考えた時にこの取組を行ったこと、そして中野会長も言われたように、その後も継続してその子のことを支援していくということを軸に保護者の方からも早くに参観していただくという取組になった。</p> <p>ただ、良いことがある一方でこういった気持ちがあるということも課題である。方法について、ずっとこの方法で実施していくと決まっているわけでないので、そういった気持ちを払拭できるようなやり方がないのか、改善できる場所があれば検討していく。今後もお力添えいただきたい。</p>
中野会長	<p>これまでの積み重ねがあって実施してきており、年長児でなく年中児ということに意味がある。年長では就学時健診があつたりするのでその前のところで他の子の姿を見る、その中での気付きもあると思う。</p> <p>やり方等についてはまた考えていただくということをお願いしたい。</p>
加々見委員	自分の子どもの発達参観の時に園にもそういったことを言ったし、周りの保護者からもそういったことを聞いていた。県外の先生に聞いても驚かれるのは事実。支援学級に在籍している児童の親で、参観日が嫌だという保護者もいる。そういうことを考えるとやはり、やり方については検討していただきたい。支援が必要な子は、現場の先生とコーディネーターと日頃の様子を見ていただいて、継続した支援を行ってほしい。

小塚委員	<p>年中児発達参観に参加し、私個人としては、我が子の成長を見れてとても嬉しかった。3歳児健診の後は専門の先生と話をできる機会がないと思っていたので、たくさん話を聞いていただけてとても助かった面もある。</p> <p>ただ、もし我が子の発達が心配だったら不安だろうという気持ちも分かる。とてもいい制度で私はとても助かったので、もっと良い形に変えて続けていただければと思う。</p> <p>「よかった」というアンケート結果が99%とあったが、1%の方はつまずいているということ。嫌な気持ちになったその1%の人こそが早期発見して支援していかねばならない人なのではないか。形を変えて続けていただきたい。</p>
中野会長	<p>事前に保健師などのスタッフが現場に見に行ったりもしている。年中児発達参観はその上での1つの過程であり、そこだけで判断しているのではない。</p>
相場センター長	<p><b>【議題（3）令和4年度三条市幼児教育推進プラン実施計画について】</b> 説明</p> <p><b>【質疑・応答】</b> なし</p>
平岡課長	<p><b>【議題（4）三条市幼児教育推進プラン(第3次)の策定について】</b> 説明</p> <p><b>【質疑・応答】</b></p>
中野会長	<p>資料4ページの中で質の向上を求められているという理解でよいか。</p>
平岡課長	<p>その通りである。</p>
中野会長	<p>大枠で整理すると、第1次では幼保小連携がまず書かれている。第2次では発達支援、運動遊びプログラムや眠育など個別的な領域が強化されていった。第3次では幼児教育の質の向上を目指すというところか。質と言うと幅広いがプランとしてどう関わっていけるかと考えると、幼</p>

<p>渡辺副会長</p>	<p>児教育の現場で働く先生方をどう支えられるかということも合わせて考えていく必要がある。</p> <p>今ここでどういう方向にするという結論にはならないが、そういったことを想定しながら、各委員におかれては次回の会議までに情報収集や三条市全体としてどういう方向を目指していくべきかを具体的に御提案いただきたい。</p> <p>現場でも質の向上がだいぶ前から課題として取り上げられているが、何かから取り組んでいったらいいかすごく悩む部分である。アンケートを取るのすごく良いことだと思うが、現場で直接子どもたちに接している保育士にもアンケートを取ることなので、保育士がどういうことを求めているのか、どういうことを勉強したがつているのかということも探れるとよい。</p>
<p>中野会長</p>	<p>特に保育所の場合、物理的に研修の時間をどう確保していくかということも課題になってくる。幼児教育の質と言っても資質や実践など様々なレベルがある。その中でどこに照準を当てていくのか聞かせていただきたい。</p>
<p>村田委員</p>	<p>とても難しいが、実際保育士が不足しており、経営的な部分でも各法人に課題があると思う。ここで回答を示すことは難しいが、三条市全体として考えていくものなので私立保育園、認定こども園連盟の意見を取りまとめていきたいと思う。</p>
<p>中野会長</p>	<p>マンパワーが不足しているのは承知している。配慮が必要な児童に加配制度で対応しているのが現状。そこの人材をいかにプールしておくというのも大事な視点である。そのためにはどういったシステムが必要で、それが三条市にとってどういったメリットがあるのかなども加味しながら活発な議論にしていきたい。</p>
<p>村田委員</p>	<p>三条市で行っている発達支援コーディネーターというのは、すごく有益な部分が多いと感じている。ただ発達支援コーディネーター1人に係る業務量が過密になってくる。2年に1度コーディネーター養成研修があるが、そういった専門知識を学べる機会を増やしていただくと現場としては大変ありがたい。本当は発達支援コーディネーターだけでなく、全ての職員がそれと同じような知識をもっていればいいのだが、市がバ</p>

平岡課長	<p>ックアップをしてくれるのはすごくありがたい。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>本日いただいた様々な御意見を参考にさせていただき今年の事業や、第3次プラン策定に活かしていきたい。</p> <p>次回会議は、第3次プラン策定のご意見をいただく機会として9月末頃を予定しているのでよろしくお願いいたします。</p> <p><b>【終了】</b></p>
------	---